

1 副詞 …状態や程度を表し。主に連用修飾語(用言を修飾)になる。

例 ・山がとても美しい。
※用言⇨動詞・形容詞・形容動詞

2 副詞の種類…状態の副詞・程度の副詞・呼応(陳述)の副詞の三種類。

3 状態の副詞…主に動詞を修飾し、その様子や状態を表す。「どのよう」

例 ・風がそよそよと吹く。 ・ゆっくり歩く。

4 程度の副詞…主に形容詞・形容動詞を修飾し、その程度を表す。「どれぐらい」

例 ・テストの結果はかなり良い。

※程度の副詞は、副詞や名詞を修飾することもある。

例 ・かなりゆっくり歩く。(副詞を修飾) ・もう夜だ。(名詞を修飾)

一 次の文章中にある副詞に―線を書きなさい。副詞は四つあります。

今日は家族で電車に乗ってでかけよう。父の仕事がずっと忙しかったので、なかなかみんなで出かけられなかった。電車の窓から見える山の景色がとてもきれいで、晴れたる空が山の美しさをいっそう際立たせている。

主に動詞を含む文節を修飾

主に形容詞・形容動詞を含む文節を修飾

二 次の文中の―線部が状態の副詞ならA、程度の副詞ならBと書きなさい。

① 彼女はわざと私にぶつかったのだろうか。

A

② 車の中では、ちょっと古い音楽を聴いていた。

B

③ ゆらゆらと揺れているのは、隣の家の洗濯物だ。

A

④ 今日はすこぶる赤ちゃんの機嫌が良い。

B

三 次の各文の―線部の副詞が修飾している一文節に、(例)にならって―線を書きなさい。

(例) 母はずっと私を見守る存在だ。

① ミケはいつもとことこやってきて、ちよこんとぼくのひざの上に座る。

② ポチはもうすっかり僕ら家族の一員だ。

③ いきなりその事故が起こったので、現場は騒然としていた。

